

令和6年度 大阪府立豊中支援学校 第1回 学校運営協議会記録

1、日時：令和6年6月12日（水）10：00－11：45

2、場所：本校調理室

3、構成：＜ 委員 ＞ 6名

＜事務局＞ 校長、教頭2名、事務長、首席2名

＜ 傍聴 ＞ なし

4、内容

| | | |
|-------|---|---|
| 10:00 | 第1回協議会次第説明 校長挨拶 協議会委員・事務局の紹介 校内見学 | (事務局) (校長) |
| 10:40 | 委員長選出 報告及び協議、質疑応答 ・令和6年度学校経営計画及び学校評価 ・令和6年度 キャリア教育全体計画 ・令和6年度 選定教科書について ・50周年記念祭について | (校長) (委員長) (校長) (首席) (首席) (首席) |
| 11:30 | 事務連絡 | (事務局) |

上記のとおり報告等を行い、各委員より次のような意見をいただいた

令和6年度学校経営計画及び学校評価、学校生活全般、キャリア教育全体計画について

＜学校より＞

- ・キャリア教育・防災教育・ICT 機器を活用した教育の3本柱
- ・開かれた学校づくりでは、今年度は相談を受けたことがない学校へのアプローチと、新たに高等学校へのアプローチを行い、地域の支援教育の充実と活性化を図る。
- ・本校のキャリア教育についての説明と、今年度のキャリア教育の計画や取組みについて

＜委員より＞

- ・子どもがどこに向かって進んでいくのか、どういうふうには社会の中で生きていけるのか、という卒業後の進路が気になっている。例えば、ICT 機器の活用という点においては、地域では一人一台 iPad が配られ、家庭でも取り組めるようになっている。本校でも使える機会を増やし、大切に扱うことも含めて、活用術の幅を広げ、社会の中で通用する力をつける、という部分が充実していけたらいいなと期待する。
 - ・ICT 機器の活用について、情報機器と黒板などのアナログ教材道具との活用のバランスも大事。
 - ・重点項目は小学校とも関連している。参考にさせていただく。
 - ・昨年度の学校間交流を通して、子どもたちが工夫して交流する姿をみた。子ども自身が気づき、子ども同士で学びあっている姿が良かった。
- 「地域にねざす」という視点では、“双方にとって”ということが大事である。子どもだけでなく、双方の教員同士も出会える良い機会となっている。
- ・児童生徒数が多い中、先生方が工夫されていることを知ることができて感激した。

学校が良い方向に向かっていると感じた。

・小学校からの取組みがわが子の成長につながっており、小学部の基礎が大事だという考えに共感する。

令和5年度進路決定状況、新規採択の教科書等について

<学校より>

- ・昨年度の進路の報告。
- ・新しい進路先（アイランド・アイズエン）の紹介。
- ・教科書選定の工夫や傾向をお伝えした。

<委員より>

- ・障がい者の雇用率が高くなってきている。就労を目指す人が増えていく見通し。
- ・一般校卒業の保護者からの相談で、「進路の情報をあまり知らない」「支援学校の方が詳しいらしい」とあった。支援学校から一般校への情報発信があってもいいかもしれない。
- ・地域の情報を入手することが大事である。
- ・人と人との関係性で企業側も検討される傾向がある。そういった点では、進路担当者が短期間で変わらない方が良くもしいかもしれない。
- ・教科書選定状況を確認することができた。